

## 甘粛省蓮花山におけるシセンフクロウの基礎的観察

方昉<sup>1</sup>・孫悦華<sup>1</sup>・Wolfgang Scherzinger<sup>2</sup>

1 中国科学院動物研究所

2 ドイツバファリア国立森林公園

訳 福井和二

シセンフクロウ (*Strix davidi*) は中国固有の鳥類で、現在知られている分布は四川省西部、甘粛省南部と見られ、高山針葉林中に生息し、その生態学的資料はきわめて少なく、営巣についての報告はいまだない。1800年にフランスの博物学者 Armand David が四川省の森林中で初めてこのフクロウを捕獲した。1875年、Sharpe がフクロウ *S. uralensis* の亜種として *S. u. davidi* と命名した。シセンフクロウは体型、形態、鳴き声等は非常にフクロウと似ているが、フクロウ (*S. uralensis*) が欧亚大陸の北部森林地域に生息するのに対し、この種のみが長く分離、孤立して生息することから、現在、国際的に重要な著述ではこれを単独種している。

1995年、初めて蓮花山自然保護区の針葉樹林中でシセンフクロウの分布が発見された。この保護区森林の日向斜面には台湾アカマツ (*Picea asperata*)、冷杉 (*Abies fargesii*)<sup>1</sup>、ヤナギ (*Salix* sp)、糙皮樺 (*Betula utilis*)<sup>2</sup> 等の樹種で構成されている。その他灌木、草本、箭竹 (*Sinarundinaria nitida*)<sup>3</sup>、スイカズラ、シダ類などが密生し、多様な植物が豊富である。30～40年前に蓮花山の森林が破壊され、フクロウの営巣に適した大きな冷杉や台湾アカマツが伐採された。2002～2003年、英国の石油会社の自然保護支援 (BP Conservation Programme) により蓮花山森林中に40個のシセンフクロウ用の巣箱を設置した。巣箱の大きさはヨーロッパにおけるフクロウの巣箱を参考に40×30cm、高さ60cmにした。巣箱は日陰斜面の大きな台湾アカマツあるいは冷杉の、地上より4～5m、南向で前面が開けた位置に設置した。利用のないまま3年、2005年4月19日、1対のシセンフクロウが巣箱で繁殖した。2卵を産み、卵は純白色、この巣箱は地上4.1m、斜度30°の東向き斜面であった。5月18日2羽の雛が孵化、巣立ちは6月21日と24日であった。

日暮れ時、シセンフクロウの鳴き声を録音し、雄鳥は近くで追出しをしたりあるいは攻撃をしたり、明らかに強いなわばり確保を示した。2006年4～5月蓮花山自然保護区の唐坊灘から姉妹山までの5km<sup>2</sup>の区域内の録音調査を行ない、3つのシセンフクロウのテリトリーを発見した。5月30日から6月15日、蓮花山登山路の四天门南側斜面20m余の石崖付近で、何回かシセンフクロウの鳴き声を聞き、また1ついの行動を目撃した。6月16日の夜明け岩場の頂上付近で、大量の白い糞便痕とペリットを発見した。これはこの岩場がシセンフクロウの繁殖場所であることを示している。調査により、崖の頂上から垂直に下りた所に巣立ち2日ほどの幼鳥2羽を見つけた。近くの台湾アカマツの樹にハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*) とホシガラス (*Nucifraga caryocatactes*) が彼らを狙っていた。親鳥は人が接近するのを見て、何回も攻撃を繰り返し、鳴き声を上げて我々研究者を追い払おうとした。

シセンフクロウは岩壁の上に巣を作る。これは森林伐採により大木が欠乏し、巣を造る樹洞が無くなったことからの適応と考えられる。ヨーロッパにおけるフクロウの研究経験によるとフクロウが森の中の人工巣箱を利用するにはある程度の時間を必要とするものの、現在の蓮花山におけるシセンフクロウの人工巣箱の利用率は非常に低い、しかし、シセンフクロウの保護に対しては重要な意義がある。蓮花山のシセンフクロウの個体数は非常に稀少で、その原因の1つが営巣

場所の欠乏に関係がある。もちろんその他にも食物生物とテリトリー確保など数多くの問題があり、さらなる深い研究が期待される。

訳注

- \*1 冷杉；マツ科，モミ属。四川省大渡河，青衣江流域，西昌一带，雲南省西北部，標高 2000～4000m の山地に分布。
- \*2 糙皮樺；カバノキ科，シラカバ属。国内では四川省，雲南省，チベット，青海省，甘肅省，陝西省，河南省，河北省。国外でインド，ネパール，アフガンに分布。
- \*3 箭竹；イネ科，甘肅南部，陝西，四川，雲南，湖北，江西の標高 1000～3000m に分布